

# 学習ポイント 1

## 意味・字形・送り仮名を結び付けて、文に合う語を書く

知っている音を漢字にするには、語の意味をつかむことが大切です。学校生活や説明文で使う語を中心に、似た字、同じ読みの語、送り仮名を確かめながら書きましょう。

目標 文の意味に合う漢字を選ぶ／語を構成する字を正しく書く／送り仮名まで確かめる

### 1 音から意味を考え、漢字に直す

カタカナを見て、すぐに思い付いた漢字を書くのではなく、文の中でどんな意味になるか考えます。漢字に直した後、文に入れて読み返し、意味と読みの両方が合うか確認しましょう。

例1 知らせをツタエル → 伝える。相手に知らせる動作を表す。

例2 旅行のケイカク → 計画。これから行うことの段取りを表す。

例3 作業にシュウチュウする → 集中。一つのことに注意を集める。

### 2 熟語は一字ずつの意味も手掛かりにする

二字の熟語は、組み合わせる字の意味が分かると覚えやすくなります。丸暗記だけでなく、同じ字を使った別の語を思い出し、言葉の仲間を増やしましょう。

例1 観測（かんそく）→様子を観察して、量や変化を測る。

例2 協調（きょうちょう）→互いに協力して、調子を合わせる。

例3 増減（ぞうげん）→増えることと減ることをまとめた語。

### 3 似た字は、意味と部分を比べる

形が似ている字は、一画ずつ眺めるだけでなく、異なる部分を探します。書いた字が何の字として読めるかも大切です。読める形を保ちつつ、別の漢字になる誤りをなくしましょう。

例1 「記」は言偏、「紀」は糸偏。「記念」と「紀元」で使う。

例2 「未」はまだ、「末」は終わり。「未来」と「末尾」で確かめる。

例3 「測」はさんずい、「側」はにんべん。「測定」と「側面」で比べる。

## 学習ポイント 2

意味・字形・送り仮名を結び付けて、文に合う語を書く

### 4 送り仮名は、下線部の範囲と文の形に合わせる

漢字だけでなく、必要な送り仮名も書きます。過去の文なら過去の形のまま答えます。語尾を勝手に変えず、書いた答えをそのまま文に戻せるかを点検しましょう。

例1 背がノビル → 伸びる。「びる」まで書く。

例2 アタラシイ → 新しい。「しい」を送り仮名にする。

例3 ツタエタ → 伝えた。「伝える」に戻さず、「えた」を書く。

### 5 同じ読みの語は、前後の言葉で選ぶ

読みが同じでも、意味が違えば漢字が変わります。何を表す言葉なのか、何と結び付いているのかを確かめます。意味を言い換えてから選ぶと、音だけでの取り違えを防げます。

例1 川のカコウ → 河口。川が海や湖へ流れ込む所。

例2 工場で材料をカコウする → 加工。材料に手を加える。

例3 水面がカコウする → 下降。位置や高さが下がる。

### 6 書き終えたら三つの観点で見直す

①読みが指定どおりか、②漢字の意味が文に合うか、③字形と送り仮名が正しいか、の順に見直します。間違えた語は正解だけでなく、取り違えた理由を一言残すと復習に役立ちます。

例1 ジュギョウ → 授業。「受ける」の「受」ではなく、手偏のある「授」。

例2 ザンネン → 残念。「念」の下「心」を落とさない。

例3 フカメタ → 深めた。漢字と「めた」の両方を確認する。

# 使い方と参考資料

## 取り組み方・表記の基準・参照資料

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順に組みこなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

中学2年生の基礎～標準を中心に、既習事項の復習と文脈に応じた使い分けを扱います。全語が全国共通の中2新出事項という意味ではありません。

罫線は10mm間隔です。解答欄の番号や表示に合わせて答えなさい。余った行は空けて構いません。

本教材では、学習用の標準的な表記を練習します。辞書に認められる異表記をすべて解答に挙げているわけではありません。言い換え・別読・送り仮名は、各問の解答と採点基準を確認してください。

設問と例文はオリジナルです。特定の入試の出題頻度を示す教材ではありません。学習範囲や語義・表記は、次の資料を参照しました。

1 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」

2 漢字ペディア「対照」

3 漢字ペディア「収める」

4 漢字ペディア「修める」

5 漢字ペディア「つとめる」 同訓異義

6 漢字ペディア「反映」

7 漢字ペディア「採用」

8 漢字ペディア「用」

9 漢字ペディア「史料」

資料確認日 2026年10月12日。資料名から参照ページを開けます。